

日本体育大学

令和8年度入学者選抜 【出題の意図・模範解答】

学部・選抜方式	スポーツ文化学部 スポーツ国際学科 学校推薦型選抜 一般推薦
科目	小論文

【出題の意図】

- ・ フェアプレーについての理解を確認し、説明することができるか。
- ・ 問題文からどの部分をフェアプレーとして読み取ることができるのか。
- ・ フェアプレーをスポーツではない環境（=社会）で活かせるかという応用力の確認。

【模範解答】

「フェアプレー」とは、スポーツの試合においてルールを守るだけでなく、相手を尊重し、正々堂々と戦う姿勢を指す。その精神は、ただ勝利を目指すのではなく、人としての誠実さや尊厳を大切にすることにある。「フェアプレー」は、単なるスポーツ用語にとどまらず、世界共通で広く認識されており、競争環境における人間性ともいえる。

1984年のロサンゼルス五輪での柔道無差別級決勝は、その象徴的な例である。日本代表の山下泰裕選手は、試合で大けがを負いながらも、痛みをこらえて試合に出場した。決勝戦の相手はエジプトのモハメド・ラシュワン選手であった。エジプト側の戦略は、山下選手の怪我が悪化するのを待つというものであったが、ラシュワン選手はそれを実行せず、あくまで正面から勝負しようとした。彼の行為は、消極的に逃げたり、時間稼ぎをすることなく、堂々と勝負に挑んだ点がフェアであると評価できる。もし彼が相手の怪我に頼って消極的に試合を進めていたら、たとえ勝ったとしても後味の悪いものになっていたろう。ラシュワン選手は、真の意味でフェアプレーの精神を理解し、実践したといえる。

フェアプレーとは、勝つこと以上に大切な価値を示す。それは相手を敬い、ルールの枠を超えて「人としてどうあるべきか」を問いかける行動である。真の強さとは、相手を打ち負かすことではなく、相手を尊重しながら全力を尽くすことだと、この事例は私たちに教えてくれる。競技という枠を超えて、フェアプレーが示すのは、私たちが社会の一員として、また一人の人間として、他者とどのように向き合い、どのように行動すべきかということを見せてくれる。ラシュワン選手のこのような姿勢は、スポーツだけでなく、日常生活でも私たちが見習うべき大切な態度だと考えられる。